

日本列島における 土器出現期の較正年代について

IntCal04とIntCal09の違いおよび「13,000年問題」

Calibrated Radiocarbon Dates of the Earliest Pottery in the Japanese Archipelago : Distinction between IntCal04 and IntCal09, and "the Year 13,000 Problem"

工藤雄一郎

KUDO Yuichiro

はじめに

- ①最終氷期まで遡る較正曲線
- ②IntCal04とIntCal09の年代差
- ③土器出現期の較正年代:「13,000年問題」
- ④大平山元 I 遺跡が残された頃の北東北の古環境

おわりに

【論文要旨】

2009年12月に較正曲線 IntCal09 が公開され、日本列島の後期旧石器時代初頭から縄文時代草創期まで、IntCal を用いて較正年代が議論できるようになった。しかしながら、すでに IntCal04 で公開されていた 26,000 ~ 12,000 cal BP の範囲でも大きな変更が加えられており、特に土器出現期の年代域での差が著しい。IntCal09 の場合、土器出現期の前後の年代域ではカリアコの海底堆積物など多くのデータが加わり、より詳細な較正曲線となったが、較正曲線が平坦な「13,000年問題」の年代域に該当するため、この年代に該当する遺跡や土器群の較正年代を絞り込むのは極めて難しいことがわかった。現状では、日本列島における土器の出現を 17,000 ~ 15,000 cal BP の間のどこかの可能性が高いと指摘するに留めておきたい。これに対し、IntCal09 を用いても IntCal04 を用いても、隆起線土器の年代が 15,000 cal BP 以後が中心である点は、これまでの年代的位置づけとほとんど変わらないことがわかった。隆起線土器に先行する土器群が、日本列島で最古段階の土器群であることは間違いがないが、その中でも最古に位置づけられる土器が、列島内のどこで使用され始めたかによって、出現時の土器の用途と古環境との関係性の議論も異なってくる。土器の出現とその用途、出現の歴史的意義については単純に一般化できる問題ではなく、その後の土器の普及と古環境とのかかわりも含めて、今後詳細に議論していくことが必要である。

【キーワード】 土器出現期, ^{14}C 年代, IntCal09, IntCal04, 大平山元 I 遺跡